

## J R南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会（第7回）

日 時：平成29年11月29日（水）

18時00分～

場 所：幸区役所 4階 第3、第4会議室

### 次 第

#### <開 会>

1 11月16日開催のまちづくり委員会の報告

2 第6回の主な意見と基本的な考え方について

・・・資料1

3 南武線沿線まちづくりの方向性について

・・・資料2

#### <閉 会>

## 第6回の主な意見と基本的な考え方について

## 1 第5回の主な意見と基本的な考え方について

- ① 移転が必要となる地権者への対応についての回答で、なるべく少ない人数での説明会を開催とあるが、少ない人数とはどのくらいの単位を考えているのか。  
⇒現時点で、何人といった具体的なものを決めているわけではありませんが、街区などの単位でご説明をさせて頂きたいと考えています。

## 2 課題解決に向けた取組みについて

- ① まちづくりの方向性のキーワードに「バス路線の充実」とあるが、自動運転システムなどの新たな交通システムのなどの開発が各方面で進められており、これは高齢者などの交通手段としても有益なものであるため、このような新たなシステムなどについても触れておく必要があるのではないか。  
⇒新たな交通システムなどに関しても方針に盛り込むかを検討します。
- ② J R 中央線の事例について、昨年現地調査に行った際に見た高架下の店舗はゆとりある雰囲気でも営業していたが、賃料はどのくらいなのか。中央線の高架事業は東京都が事業費を負担し行ったものと考えられるが、東京都側が J R に地域貢献として抑えた賃料設定などを求めているのか。そのあたりの仕組みの有無について研究してほしい。
- ③ 南武線ですでに高架化されている区間では町会の会館や、自転車の駐輪場として利用されているが、回遊性の創出という点ではあまり有効とはいえない。まちの活性化となるような方策を検討してほしい。
- ④ 連立事業の事業費のほとんどは川崎市の税金から出されるものとなるのだから、高架下の利用については地位貢献という観点で J R に弾力的に対応してもらえよう、市側でしっかりと調整してほしい。  
⇒高架下の利用内容については、今後も J R 側と調整をしていきます。
- ⑤ 鹿島田・新川崎駅周辺におけるまちづくりの方向性で、「バス路線の充実による周辺市街地との連携強化」が挙げられているがそのポイントは交通広場の充実なのではないかと考える。現状、新川崎に整備されている交通広場を鹿島田の住民がわざわざ新川崎駅の交通広場まで行って利用するということはほぼない。同時に現状のタクシーの利用についても不便さを感じている。  
⇒地域の方々と各駅周辺のまちづくりを今後検討していく中で、鹿島田駅周辺については、都市計画道路の整備計画などを含めて、駅前のバスベイやタクシー乗り場などのあり方についても協議をしていきたいと考えています。
- ⑥ 商店街の活性化において、交通アクセスは大きな影響を及ぼすものであるため、総合的な検討をしてほしい。小売店舗の経営者はかなり厳しい状況で頑張っているが、高架下に周辺より安い賃料で出店できる可能性など、地元の店舗が活性化できる方策を是非検討してほしい。  
⇒既存の商店街の活性化については我々も課題であると捉えておりますので、商業振興の部署等と連携しながら様々な方策や可能性を検討していきたいと考えております。
- ⑦ 連続立体交差事業の推進により解消する課題として、踏切横断時に歩行者と自転車が錯綜し危険と挙げられている。事業期間が長期になるということであれば、危険な状態が長期で続くこととなるが、

その対策などは考えているのか。

- ⑧ 現状の踏切については危険性を感じるため、人の流れや車の流れなどを総合的に検討し、安全な環境づくりができるよう検討進めてほしい。  
⇒現在JRとは、連立事業の推進と並行し、現状の課題の改善についても調整・協議を進めています。歩行者や自転車が通行しやすい踏切の整備や、両側改札の整備による踏切横断の減少の方策についても検討をはじめております。
- ⑨ 商店街の活性化方策については、各店舗や商店街単位で行うには限りがある。地元企業と協力、連携して商店街を活性化できる道筋などを誘導してほしい。
- ⑩ 商店街の現状として、担い手の不足により商店会の活動そのものはかなり厳しい状況となっている。高架下の店舗整備・誘導については既存商店街の活性化につながるようなものを検討してほしい。